盂蘭盆の迎え方

私の住んでいる地域では、8月13日のお昼前頃から夕方にかけて(出来るだけ早い時間が良いとされている)、写真の瓜模様の盆提灯を持参して墓参りをする。墓



参後、提灯の蝋燭を灯すと、ご先祖さまの精霊が 墓碑から出て来てこの提灯に入られる。そのまま 大切に家まで持ち帰り、お佛壇の前で灯を消すと、 ご先祖さまは無事「里帰り」をされたのだと子供の 頃教えられた。私のように帰り道に振り回して提灯 が燃えてしまうとひどく叱られる。15日の送りには 逆の事をして墓碑の前で灯を消す。この盆提灯は 七月盆の頃からスーパーなどで売られている。安 価で 120 円前後だ。初盆を迎えられる方には真 っ白な提灯が売られている。お隣、愛知県ではこ の提灯は一切使われていない。何年か前に16日 に岐阜羽島駅から新幹線に乗車して、車窓からそ の使用地域を調べたことがある。墓地にこの提灯 があるのは、大垣を過ぎて関ケ原手前までであっ た。ごく限られた習慣だといえます。



京都東山(清水寺の坂を下りた所)に「六道珍皇寺(ろくどうちんのう

じ)」という禅宗のお寺がある。「ろくどうさん」と呼ばれ、地元の人々に親しまれているお寺で観光寺院ではない。8月7日から10日までの朝6時から22時まで「六道参り」が行われ、多くの参詣者がたえない。このお寺の本堂奥には、並んで2つの井戸がある。一つは、「この世からあの世へ通じてい

る井戸」。もう一つは、「あの世からこの世へ通じている井戸」がある。お盆に里帰りされるご先祖さまは、この井戸から出ていらっしゃるのだ。だから家の宗旨がなんであろうと関係なく、地元の人々は



このお寺へご先祖さま をお迎に行くので、早 朝から夜まで連日賑

わうのです。お寺の前の道は車両通行止めになり、 多くの露店商が出ています。その中に「高野槙」の 枝が2本 1,500 円程で売られている。高野槙は、 関西では佛事のお花として日常的によく使われる とても良い香りがする。井戸から出てこられたご先 祖さまは、高野槙の上に乗られてお家まで運ばれ るのです。来寺して先ず高野槙を購入します。そし



て次に長い行列に並びます。「迎えの鐘」です。里帰り途中、ご先祖さまが「六 道の辻」で道に迷わないように鐘をついてお導きをい

たします。梵鐘は朱色のお堂内に設置され、緑色の窓の下から太い綱が出ており、それを手前に引っ張ると音が出る仕組みになっています。他には無い梵鐘です。混雑しているので炎天下40分程並ばないといけない。あるおばあちゃんは、「猛暑やから、もう高齢だし、今年こそは止めとこと思い家を出るのやけど、行くとついつい並んでしまう…」、その気持ちわかります。露店で、ご先祖さまが好物だった柴漬けでも買って帰ります。

ちなみに、8月16日にご先祖さまを送る寺は別にあります。寺町三条の「矢田寺(やたでら)」です。 ここには、「送りの鐘」があります。

俊徳丸